

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
 松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

ぜひ、ご活用ください ～購入図書紹介～



今年度も、新しい図書が入りました。一部ご紹介いたします。
 蔵書は、ホームページでもご確認いただけます。

書 籍	著 者	出 版 社
こうすれば学校教育の成果は上がる	河村茂雄	図書文化社
学校と創った教室のできる関係づくり「王道」ステップ ワン・ツー・スリーⅡ	曾山和彦	文溪堂
イラスト版子どものアンガーマネジメント 怒りをコントロールする 43 のスキル	篠真希 長縄史子	合同出版
「一人も見捨てへん」教育 すべての子どもの学力向上に挑む	志水宏吉	東洋館出版社
思春期の子のこころがわからなくなったときに読む本	渡辺久子	カンゼン
幸せになる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教えⅡ	岸見一郎 古賀史健	ダイヤモンド社
実践から学ぶ深く考える道徳授業	加藤宣行 竹井秀文	光文書院
『私たちの道徳』 完全活用ガイドブック 小学校編	長谷徹	明治図書
『私たちの道徳』 完全活用ガイドブック 中学校編	柴原弘志	明治図書
若手教師のための英語授業 70 のツボ	後藤信義	三省堂

研修講座報告2

講座の様子をご紹介します！

B-20 乳幼児教育Ⅱ「新制度の保育・教育・子育て支援と私たちがめざす実践」

講師 田口 鉄久 先生

今、保育・教育をめぐる状況がどう変わろうとしているのか、その中で、私たちがめざすべき保育・教育は何なのかについて、ご教授いただきました。「一人ひとりをささえていく、やさしさを大切にしていける保育」「子どもたちの日々の保育を大切にしながら、新たに起こってくる状況にうまく対応し、新たな保育を創造していく」という先生のお言葉に、これまで大切にしてきたことを土台として実践をすすめていくことの自信と心構えをいただきました。



A-8 外国語活動/外国語「外国語教育で小中学校がつながる～アクティブ・ラーニングを見据えた主体的な外国語教育の取組～」
 講師 ダー・ユー・チェン 先生



松阪市に ALT を派遣いただいている、(株)インタラック関西東海の ALT トレーナー、ダー・ユー・チェン先生に、「外国語教育で小中学校がつながる ～アクティブ・ラーニングを見据えた主体的な外国語教育の取組～」と題して講義をいただきました。今年、松阪市ではイングリッシュキャンプも開催され、外国語教育への取組が進められています。小学校での外国語の教科化も踏まえ、小中連携の一つの枠組みとして、外国語教育を捉え直す機会となりました。

B-18 特別支援教育Ⅲ「教室でできる特別支援教育」

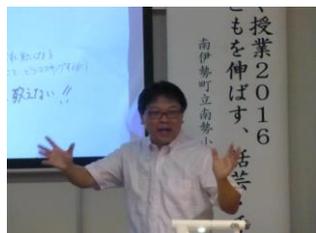
講師 曾山 和彦 先生

教室でできる特別支援教育、という観点から、子どもたちとの関わり方について、具体的な事例ややり方を交えてお示しいただきました。その観点が、全ての子どもたちの居心地の良さにつながっていくことを、受講者の皆さんが感じられたのではないかと思います。「教師一人の力よりも子どもの横糸で」という先生の言葉から力をいただき、夏休み明けからの受講者の実践につながるものとなりました。



B-1 授業力向上「心が動く授業 2016『子どもを伸ばす、話芸・手芸』」

講師 中村 武弘 先生



授業力向上のための考え方や手だてについて、具体的に「話芸」「手芸」という形で多くのことを学ぶことができました。子どもたちの答えに対する受け答えの仕方や採点時にかかる声のかけ方など、「どう主体的に考えさせるのか」「そのために、教師が子どもにどのように聴くのか、問い返すのか」、そのための話芸や手芸を様々な教科や教材の中で活用することを教えていただきました。

B-13 危機管理「家庭と連携した情報モラル教育」

講師 長谷川 元洋 先生

計画的な情報モラル教育の指導の必要性について、具体的な実践事例を紹介しながらお話ししていただきました。

後半のワークショップでは、スマホ・ケータイのトラブルについて、少人数で問題事例を検討しました。そして、それぞれのグループがまとめたものを発表し合いました。情報機器に関する知識に自信がなくても指導できることがわかりました。



B-3 授業力向上「子どもが主体的に動く授業づくり」

講師 藤村 千雪 先生



子どもたちの姿とその時の教師の役目を、実践事例をもとにお話ししていただきました。受講者からは、「先生のぶれない姿勢、子どもたちが学んだこと、やりたいことを実現させる場を設定していくことの大切さ、いろいろな方との出会い、違ったほめ方をしてもらうことで自信につながることを学ばせてもらいました。」「自分でもできることを見つけれられたように思います。」等の声が寄せられました。

B-14 メンタルヘルス「教育現場に必要なメンタルヘルスの基礎と応用」

講師 十一 元三 先生 / 義村 さや香 先生

「メンタルヘルス」とは、何か難しいこと、特別なことではなく、子どもとの日々の関わりの中でこそ、対応していけるものであることを実感できる講座でした。ASDの症状は多様さだけでなく、中核的症狀を理解し、適切な対応をすることで二次障害を少しでも軽減させることができることを学ぶことができました。日々の実践の中で多角的な視点から子どもを捉えていく必要性を学ばせて頂きました。



B-15 郷土教育「郷土の偉人に学ぶ教育の実践から」

講師 松本 吉弘 先生



前半は、第二小学校の安達五百先生と徳和小学校の三宅孝史先生に、これまで郷土の偉人に学ぶ教育について実践されてきたことについて発表していただきました。

後半は、第一小学校長の松本吉弘先生に、郷土の偉人に学ぶ教育の実践からどのように学び、それぞれの実践につなげていくのか、その方法等についてお話ししていただきました。